

## 品川区文化芸術・スポーツ振興ビジョン策定

### 「文化芸術」懇話会(グループインタビュー)に関する報告

#### 1. 実施目的

この懇話会(グループインタビュー)は、品川区文化芸術・スポーツ振興ビジョンの策定にあたり、区内で活動している文化芸術団体の関係者(代表者等)に、活動の実態や現状などを伺うために行ったものです。

#### 2. 実施日時・場所

平成 21 年 6 月 15 日(月) 14:00~16:30 品川区役所第 2 庁舎「256 会議室」

#### 3. 参加団体(7 団体) 敬称略

・財団法人 六行会	村林 達次 (代表)
・品川音楽文化協会	加納 純子 (会長)
・江戸の里神楽 間宮社中	間宮 朝臣 (代表)
・しながわ美術家協会	山野井 幸一 (会長)
・品川区華道茶道文化協会	佐々木 一完 (理事長)
・日立ソフト吹奏楽団	加々美 利彦 (代表)
・品川クラシック音楽協会	原 利江子 (会長)
・株式会社明電舎	熊井 康雄 (東京事業所長)

#### 4. テーマ

- ・各団体のプロフィール
- ・各団体が目標や理想としている組織像・活動等
- ・各団体が抱えている課題や問題点  
会員の拡充、継承者の育成、新旧住民の交流(新住民の加入促進)など
- ・「品川ならではの」「品川らしさ」について
- ・文化芸術を盛り上げるために必要なこと  
自団体が貢献できること、他団体等との連携・協働のあり方など
- ・文化芸術の振興を通じた品川区のまちづくり  
にぎわい、こころの豊かさ、交流など

## 参加団体概要

団体名	<b>財団法人 六行会(りっこうかい)</b>
代表者	村林 達次
設立年月日	1927年(昭和2年)10月1日
団体の目的	学校教育の活性化及び充実、並びに地域における文化の発展及び生涯学習の支援に寄与すること。
団体の特徴	1845年(弘化2年)東海道・品川宿の人々の荷役負担を援助する為に地主が積立金を始めたのが団体の発祥。明治以降宿場の廃止でその収益金をもとに教育助成・文化支援を行なう地域に密着した組織。

団体名	<b>品川音楽文化協会</b>
代表者	加納 純子
設立年月日	1962年(昭和37年)4月1日
団体の目的	音楽を通じて品川区民の文化向上を図ることを目的とする。
団体の特徴	発足よりアマチュア管弦楽団を育てて来た。区と共催で年2回のコンサートを行なっている。又、年一度声楽家の先生方と区民参加の合唱団とのコンサートを行なっている。

団体名	<b>国重要無形民族文化財「江戸の里神楽 間宮社中」</b>
代表者	間宮 朝臣
設立年月日	1819年(文政2年)6月
団体の目的	江戸時代に集大成された江戸独特の伝統芸能の伝承と保存。品川区をはじめ主に城南地区の人々への普及活動を通じ、地域文化の振興を図る。
団体の特徴	能・歌舞伎・壬生狂言などの要素を取り入れ、主に古事記・日本書紀などの神話を題材とした無言劇。演者は面と装束を着け、身振り・手振りによる表現で演じる。基本的なセリフのないパントマイムのような黙劇。

団体名	<b>しながわ美術家協会</b>
代表者	代表 山野井 幸一
設立年月日	1988年(昭和63年)3月1日
団体の目的	展覧会を通じ各自の美術に対する主観的態度の確立を期しもって品川区の文化進展に寄与すること
団体の特徴	品川区在住、又は過去に在籍した人で組織

団体名	<b>品川区華道茶道文化協会</b>
代表者	佐々木 一完
設立年月日	1945年(昭和20年)8月1日
団体の目的	日本の伝統文化である華道茶道を身近な芸術として高揚発展させ併せて会員相互の親睦を図る
団体の特徴	品川区の文化事業に協力することが出来る

団体名	<b>日立ソフト吹奏楽団</b>
代表者	加々美 利彦
設立年月日	1985年(昭和60年)8月1日
団体の目的	社内外の方々に対して、良質の音楽を提供することにより、音楽を通じての社外貢献活動や社員の連帯感の共有に寄与する。
団体の特徴	・日立ソフト及び日立ソフトグループ会社の社員で構成する吹奏楽団 ・日立ソフトの文化体育会(社員相互の親睦・交流を目的とした活動)の中の一団体。 ・演奏活動は社員向けだけでなく、地域社会も対象に実施 日立ソフトの本社が2002年10月に品川に移転して以降の活動

団体名	<b>品川クラシック音楽協会</b>
代表者	会長 原 利江子
設立年月日	1993年(平成5年)
団体の目的	会員相互の自主自立による音楽活動を通じて会員相互の親睦をはかり若手音楽家の育成につとめ、品川区民とともにクラシック音楽の振興を図る。
団体の特徴	

団体名	<b>株式会社 明電舎</b>
代表者	取締役社長 稲村純三
設立年月日	1897年(明治30年)6月
団体の目的	電気機械器具製造販売、いわゆる重電メーカー
団体の特徴	企業使命として「より豊かで住みよい未来社会の実現に貢献するため、新しい技術と価値の創造にチャレンジし続けます」

## 文化芸術懇話会を通して

品川区で文化芸術活動を牽引する、様々な特徴ある団体、企業の意見を伺うことができた。この懇話会を通して、品川区には多くの有用な財産・資源が豊富にあること、人材も多種多様であることがわかった。一方、各団体間の交流の場や情報共有への期待も寄せられた。

今回の意見は、次のような分類によりまとめた。

- 資源の多様性
- 連携、協働の現状
- 情報発信・収集の現状
- 環境、機会の現状
- 人材・育成の現状
- まちづくり

## 資源の多様性

品川区には、独特の歴史・伝統のあるまつりのほか、宿場町「品川」に根付く独自の活動を続ける団体、区内で文化活動を推進する団体、地元でCSRに取り組む企業などが、多種多様な展開をしている。それらの、いわば「資源」が品川区には多く存在する。

< 品川宿や江戸の里神楽などの古くからの文化、歴史を守っている >

間宮さん(江戸の里神楽 間宮社中)

国の「重要無形民俗文化財」に指定されている江戸の里神楽の間宮社中の代表をしている。江戸の里神楽は、古事記をベースとして、能、狂言、歌舞伎の要素を取り入れた伝統芸能。発表の場としては、主に品川区、それから大田区、世田谷、目黒を中心としている。

村林さん(六行会)

毎年 9 月には、宿場祭りがある。品川の宿場、いわゆる昔からある品川の風情を残していきたい。品川の宿場として「品川宿」を残していきたい。

加々美さん(日立ソフト)

品川宿や江戸の里神楽のような古くからの文化、お祭りなど、「品川」という

ことで特徴のある、昔からの文化があると思う。そういった伝統を大事にしていくのは非常に良いと思う。

< 地域に根ざした独自の活動を長く展開している団体が多い >

村林さん(六行会)

当会は、もともと江戸時代の東海道の品川の宿にできたNPO法人のようなもの。当時は人足その他を出し、困窮しているところに援助をする団体として発足した。その後、明治時代以降は「教育への助成」や「文化への支援」などの様々な事業を行っている。

山野井さん(しながわ美術家協会)

〇美術館ができたときから始まった会。

原さん(品川クラシック音楽協会)

まだ一人で活動する(リサイタルを開くなど)には力が足りないという演奏家のために、(品川区を中心に)集まり活動している会。品川日曜コンサート(毎月第3日曜日)、ファンタジーコンサート(年1回)、会員ジョイントコンサートなどを開催している。

加納さん(品川音楽文化協会)

品川区民交響楽団に楽器を提供するために、合唱団を結成してチャリティコンサートを開いたところから始まった。現在は、春・秋のコンサート、歌の祭典を行っている。

佐々木さん(華道茶道文化協会)

当会は昭和20年に創立されたが、今年3月には60周年記念式典を行い、区議会議員、行政関係者など、200人ほどが集まった。日本の伝統文化である茶の湯、華道を、皆さんに理解していただこうと、茶会や華会を毎年必ず行っている。

< 企業のCSRの取り組みが地元品川区へ展開されている >

熊井さん(明電舎)

当社は、電気機械器具を製造販売している会社である。いわゆる重電メーカーと言われる会社で、品川区とのつながりは非常に長い。大正2年に大崎の駅

西口に大きな工場を建設した。その頃から、大規模なモーター、変圧器などの重電機器をずっと作ってきた。

創業 110 周年を機に、地元の皆さんにご愛顧いただいているので、どうか恩返しできないか、という社長の発案で、小学生に音楽をプレゼントする企画を実施した（品川区の小・中学校あわせて 29 校、約 7,000 名に東京都交響楽団の協力でアンサンブルをプレゼント）。

加々美さん(日立ソフト吹奏楽団)

日立グループのコンピュータ事業でソフトウェア開発を専門にやっている会社。2002 年に本社を品川シーサイドに移した。こちらへ来てから、地域の皆さん方との連携を取っていくのにどんなことをしていこうか考え、ボランティア活動や歩道の清掃活動をはじめた。その縁で、青物横丁の商店街の方と知り合う。

#### 連携、協働の現状

品川区内の団体同士、団体と学校・商店街、あるいは企業と地域・商店街・学校、といういろいろなかたちで連携が取られている事例は多い。一方で、そういった連携の力をさらに高める交流の場も求められている。

#### < 団体同士の連携 >

間宮さん(江戸の里神楽 間宮社中)

一昨年からは品川区教育委員会の援助をいただき、六行会ホールで「江戸の里神楽を見る会」という発表会の機会を持ち、広く皆様に理解いただく活動をしている。

#### < 団体と学校の連携 >

加納さん(音楽文化協会)

小学校 PTA 連合会と、年 1 回、親と子の芸術鑑賞会を行っている。きゅりあんの大ホールで、小学生 1,000 人を集めて、30 分ほど合唱会や演奏を行うという活動をしている。その中で楽器体験（小学生が実際に楽器に触る体験する）が非常に評判がよかったので、今後もそういうかたちでつながっていくとおもう。

### < 団体と商店街の連携 >

村林さん(六行会)

私どもの活動は、東海道地域、東海道の品川の宿を中心にした考え方になっている。青物横丁の商店街の皆さんを含めて、旧東海道品川宿まちづくり協議会というのがあり、北品川の一丁目から南品川を通過して鮫洲近くまでがひとつのグループとしてやっている。毎年 9 月には、宿場祭りというのをやって、これは濱野区長も水戸黄門に衣装でまちを練り歩いているというお祭りだが、そういったものに協力したりして、いわゆる昔からある品川の風情を残していきたい。

### < 企業と地域・商店街との連携 >

加々美さん(日立ソフト吹奏楽団)

私どもの会社の吹奏楽団は、もともとは社内向けの演奏活動がメインだった。(品川に来てからは)地域の皆様にもお聞きいただこうと方向転換をし、定期演奏会は「きゅりあん」で行っている。そのときには、青物横丁商店街の皆さんにポスターやビラを貼るなど協力いただき、協賛というかたちをとらせていただいている。

活動そのものがまだローカルで、自分の会社の近く、ジャスコさんや商店街さんとの連携がようやくできていたところなので、地域との関係をどのように広げていくかはこれからの課題と思っている。

熊井さん(明電舎)

大崎駅前で、30 階建てビルの再開発が整った。非常に周りの住民の方々の期待が大きかった。私どもは大崎を中心に仕事を続けているので、大崎のまちがどれだけ発展していくのかということは非常に興味もあるし、それに貢献もしていきたい。

まちと人、特に住民の方々と、企業の我々がうまく調和を取っていくことが必要なんじゃないかと思う。企業サイドも箱モノとして独りよがりが開発をしても、地元の方々に受け入れられない。お互いに相互理解をする必要があるという気がしている。

シンクパークという開発ビルに入っているプーマさん(スポーツ用品メーカー)も、駅前の広場で、フットサルの教室を開発されていて、小学生多数の方を教えていらっしゃるようだし、そういうつながりをどんどん増やしていけば

よいのではないか。

< 企業と学校の連携 >

加々美さん(日立ソフト吹奏楽団)

私どもの会社のすぐ近くにある東海中学校の吹奏楽部の皆さんと、定期演奏会で合同演奏をやっている。一緒に、「きゅりあん」のステージで演奏している。中学生の皆さんには大人と一緒に演奏することで勉強になることもあるし、こちらは年齢層が高いので、自分たちの子どもと演奏しているような雰囲気、やっぱり一緒に演奏していて、少し前よりうまくなったなということが見えると、自分たちもうれしい。

IT、情報関係の会社なので、学校での IT 教育をしっかりとやっていきたいという声が社内からあがり、東海中学校で IT 授業をやっている。

< 団体同士の連携や情報共有をもっと高めたい >

原さん(クラシック音楽協会)

スクールコンサートという、学校や幼稚園を訪問して演奏を提供するという活動をしていた。年に 10 数校の依頼を受けていたが、ここ最近パタっと(依頼が)なかったのは、企業(明電舎さん)が提供していた、というのがさっきの話でわかった。(お互いの団体のことや活動を知る機会を)もっと広げる方法があればいいなとおもう。

加々美さん(日立ソフト)

今日もこういうお話の場があって大変よかったかなと思うが、自分たちのやっていることをどこで知らせればいんだろうとか、そういう機会がなかなかない。

お互いにどんなことをやっているのか、あるいは地域でどんなことをやっているのかとか、そういう知る機会がないので、何かしらお互いにそういった情報交換ができる場がもうちょっと多くあればいいかなという気がする。

情報発信・収集の現状
------------

情報発信に使われているメディアとしては、ケーブルテレビ、新聞など活字媒体、クチコミ、インターネットなどが使われている。効果の高いメディア活用をしている事例がある一方で、運用にむずかしさを感じている事例も見受けられる。また、情報のネットワーク



を広げたいという希望もある。

< ケーブルテレビの反響は高い。マスコミを利用する >

間宮さん(江戸の里神楽 間宮社中)

六行会ホールで毎年発表会をやらせていただくときに、ケーブルテレビ品川の協力もいただき、その放送を流していただいている。その反響はかなり強いので、マスコミを利用するのは理解できる。子どもたちも一緒に(放送を)見ているが、やりたい(という気持ちに)まではなかなかないが。

村林さん(六行会)

この間行ったダンスコンテストは、東京新聞で取り上げていただいた。チルドレンズフェスティバルでは、新聞社6社、テレビ会社4社など約20箇所にプレスリリースのようなコメントと、「ふる里かるた」を同封して発送した。なんらかのかたちで反応があればいいかなと思っている。

加々美さん(日立ソフト)

広報部門で、たとえば定期演奏会があるときにニュースリリースを発行して、一般の方に知っていただくようにしている。

東海中学校さんとの合同演奏会は、ケーブルテレビ品川の取材を2度ほど受けたことがある。地域のマスコミを利用することでPRをさせていただいているが、皆さんに広くご理解いただくというところまでは、まだまだいかない。

< インターネットの活用は効果がある >

熊井さん(明電舎)

ホームページやブログなどインターネットを使った媒体は非常に効果がある。広くいろいろな皆さん方にアプローチをし、情報を流し、こちらに目を向けていただくというところのインターネットの影響力は非常に大きい。特に検索ツールを使って、そのヒットする上位のほうに行くように、いろいろ工夫することによって、たくさんの一般の方の目に触れるようにする。そういう派手なところと、地道なクチコミを合わせてやっている。

< 地道なクチコミを大事に >

熊井さん(明電舎)

品川区教育委員会のご指導をいただいて、学校内での宣伝を広くしていただいている。校内のチラシや毎月の「学校だより」にも紹介していただいているので、そんな中でどんどん広がってくるんじゃないかなと思う。一般のユーザーが製品を扱うというものではないので、着実なコマーシャルのほうが私どもに合っている。そういう地道なクチコミの方向は大事にしていきたい。

村林さん(六行会)

非常に歴史は長いですが、残念ながら六行会という組織をご存じの方は非常に少ない。六行会の総合ビルの中に劇場があることをまず知らない。貸し会議室やラウンジもあるが全然ご存じない。今やっているのが、まず名前を知ってもらうこと。そこで、名前が入っている、品川「ふる里かるた」の復刻版を、城南地区の6つの小学校の生徒さん全員に配った。小学校の運動会にちょっとした参加賞を出したり、新入学の一年生にランチオンマットを配ったりして、名前を知っていただくことをやっていかなきゃいけない。

< 行政の協力を得たい >

山野井さん(美術家協会)

〇美術館を使っている関係から、もう少し〇美術館を宣伝していただきたい、と区議団にお願いしている。〇美術館そのものを知らないから、うちの会を知ってもらえない。そこからまずPRしていただかないと。

#### 環境、機会の現状

文化芸術の機会としては、「実際に文化芸術活動を行う人(活動型)」と、「文化芸術を観て楽しむ人(鑑賞型)」の大きくふたつに分けられる。「活動型」にとっては、定期的な発表の場や、練習を通して交流する場があり、さらに充実すること、「鑑賞型」にとっては、さまざまな文化芸術に気軽に触れる機会を増やしていくことが望まれている。

< 活動型: 定期的な発表の機会を持っている >

間宮さん(江戸の里神楽 間宮社中)

六行会ホールで毎年3月の終わりごろ、「江戸の里神楽を見る会」という発表会を大体1日、午後1時から4時ぐらいまで、3座ぐらいずつ発表する機会を持

っている。

祭礼や、年に1回の定期的な公演という形で（里神楽の）発表の機会を持っている。

山野井さん(美術家協会)

発表の場は、〇美術館で年1回、9月上旬にやっている。区の庁舎に毎年10点ずつ飾らせていただいている。

原さん(クラシック音楽協会)

毎月第3日曜日に、中小企業センターで「品川日曜コンサート」をやっている。年にセンター祭り2日間というのもあるので13回。

自主公演として年に1回、「ファンタジーコンサート」と題して、テーマを設けたコンサートをきゅりあんの小ホールで行っている。

会が後援して、「アーティストコンサート」という、会員のジョイント形式のコンサート（テーマはなく、会員が出演時間によって費用を出し合う）を開いている。

加納さん(音楽文化協会)

春、秋に、品川区に共催していただいて「春のコンサート」、「秋のコンサート」をやっている（お客さんも800人から900人）。

もう20何年前に、いろんな合唱連盟とかも含めた形で第九を4回ほどやった。これを歌っていらっしゃった方を主に合唱団として、それにプロの先生方をお呼びして、「歌の祭典」を行っている。来年が19回め。

佐々木さん(華道茶道文化協会)

春は歴史館で茶会、秋はきゅりあんで華会（華会には1,000人ぐらい、茶会には500～600人のお客さん）。

区役所からの成人式のお茶の接待（毎年）。歴史館の文化祭にも参加。

都連（東京都華道茶道連盟）加入の19団体が集まって、華展ないし茶会を年2回。

<活動型:練習などの交流の場を持っている>

間宮さん(江戸の里神楽間宮社中)

けいこ場は、自宅の近くの品川区の区民集会所。今、会員が大体20名近くいるが、皆仕事を持っているので、毎週木曜日の夜、けいこをやっている。

< 活動型 : 機会をもっと増やしたい >

加々美さん(日立ソフト)

本当に練習を幾らしても自己満足だけであって、やっぱりお聞きいただいて、その反応だとか、そういったことで自分たちがまた新しいことを発見してという、そういう形になっていくと思うので、ぜひそういう機会をやはり自分たちも持っていききたいし、区の中でもそういった機会が増えていくのいいかなと感じる。

< 鑑賞型 : 伝統芸能の魅せ方 >

間宮さん(江戸の里神楽間宮社中)

伝統芸能を維持していくためには、発表会も当然開いて、ケーブルテレビさんとも何回かキャッチボールしまして、どういうふうにしたらテレビを見ていてもわかっていただけるかとか、そういう勉強を常に理解してやりたいと思っている。

学校単位では、城南中学や地元の幼稚園でも、やはりそういうのを見せる環境にしたいという要望もあったが、非常に難しい。昔の古典を維持しつつ、それをどのように現代風にアレンジしていくかという面は、これからの課題になっていくのかなと考えているところ。

< 鑑賞型 : 門戸を広げる >

原さん(クラシック協会)

演奏会、クラシックについて、とても高尚であるとか、そういうイメージがまだあるようで、またコンサートというと、学校に上がっていないと出ちゃいけないとかいうのがあるが、そういう幼い子たちでもみんな入れるような、もっと門戸の広いコンサートをどんどんやらせていただいて、ちっちゃいうちから音楽というものに興味を持っていただけるような環境づくり、高尚なものでも何でもなく、それも1つのジャンルなんだというふうに思っていた方がいいなと思う。

< 鑑賞型 : 発表の場を提供している >

村林さん(六行会)

品川区さんには年 3 回、江戸里神楽、和太鼓フェスティバル、ライブサーカスと、3 回の公演を行っているので、わずかだが助成をさせていただいている。

品川区立図書館で、年 1 回、先生をお招きして講演会を行っている。共催。

基本的には貸しホールだが、六行会の主催行事も年に 4 回行っている。

「六行会寄席」(地域のどちらかとうとお年を召された方、中高年の方を対象にした落語会) 4、10 月。

「ネクストリーム 21」というダンスのコンテスト 5 月。コンテストとダンスショーケース(いろんなジャンルのコンポあり、モダンありという形のダンスを、同じ公演、同じ時間内で 3 つの違った種類のダンスをごらんいただける)。最後に、キッズと一般の方のダンスコンテストを行う。一般の者でダンスのコンテストに優勝した最優秀賞の方には、秋 10 月に六行会ホールにて、受賞記念の自主公演を行っていただく。

「チルドレンズフェスティバル」7 月。幼稚園とか幼児から中学生ぐらいまでの演劇公演。演劇とワークショップ、それから図書館を使った原作を書いた先生方の対談。

基本的には、ご利用いただいている皆様に対して、皆様をごらんいただくことによって、生の文化、演劇、音楽に触れていただくという場を提供するというのが、我々のどちらかというメインのストーリーになるのかなと思っています。

<鑑賞型:一流の音楽に触れる場を提供している>

熊井さん(明電舎)

2007 年の 110 周年を機に、これだけ地元の皆さんにご愛顧いただいているので、どうにか恩返しできないだろうか、と社長の発案で、小学生の皆さん方に音楽をプレゼントするという企画が持ち上がった。東京都交響楽団の皆さんにご協力をいただき、2007 年には、品川区で小学校 22 校、それから中学で 7 校、合わせて 29 校。金管、木管、それから弦楽のアンサンブルをプレゼントすることができ、トータル約 7,000 名の方々に楽しんでいただけた。

そのときの反響がととてもよかった。いろいろな感想文いただき、当時は 110 周年の記念の行事だったが、あまりに反響がよかったもので、その次の年、2008 年も実施した(品川区は 2 校、600 名)。

金管の五重奏では、体にその振動がじかに伝わってくるようなコンサートで、非常に生徒さんたちものりがよく、コンサートといっても、中身はクラシックからゲームのドラクエのテーマやトトロのテーマなど、いろいろ取りまぜていたし、曲の合間には楽器の話、または時代背景、曲ができた時代背景、作者の

話など教育的な要素としての音楽教室の一面も加えながらプレゼントさせていただいて、非常に好評だった。経済環境がこういう状況になってきており、今年はちょっとお休みということで、来年以降を考えている。

#### 人材・育成の現状

伝統文化の継承者や団体の会員を増やす取り組みを行う一方、なかなか十分に増えていかない現状に直面している。また、地域においては、古くからあるお祭りなどを楽しむ地元住民(活動型)に対して、近年品川へ移り住んできた新住民は、そうした文化に触れる機会をあまり持っておらず、地元住民との交流の機会をいかに作っていくかもポイントのひとつといえる。

#### <文化芸術に携わる人・伝統の継承者を増やしたい>

間宮さん(江戸の里神楽 間宮社中)

里神楽は、江戸の里神楽と指定されているのは東京に4社中あるが、比較的やる方が限られているので、交流する機会が多い。

育成で考えると、特に私どもの「里神楽」は、非常に入りづらい。基本的に入ってくるメンバーは、太々神楽(基本的な動作をやる)を習得した者か、あとは祭りばやし、おはやし関係、それからお盆舞踊の経験をした者が入ってくる。お祭り関係で、おはやしの会というのは、特に東海道沿線で行くと品川から大森、羽田まで、非常に盛ん。おはやし関係は非常に入りやすい。太鼓と笛があればできる。

それに面をつけて舞が入って、それに合わせるとなると、もうそこで引いてしまふ人がほとんど。お誘いはかけるが、なかなかやっていただけない。

太々神楽の品川神社には保存会があり、比較的半強制的で、まちの人たちがやっている。育成としては、まずそちらを習得した方の中から(当然プロではなく仕事を持っているので)、できる範囲でけいこをやって、そういう舞台で鍛えている。

「世襲」で考えると、私も息子が1人いるが、その代になった時に、やはり今入っているメンバーでも一番若いのが20代後半ぐらいですかね。なかなか小学校、中学生の子がこの里神楽をやる、理解するのが非常に難しく、そこをこれからどのようにしていったらいいのかは課題。

山野井さん(美術家協会)

(会員は)最初は区民だったが、区民に限ると、どうしても人数が減ってってしまう。なので、もう少し緩やかにして、過去に私たちの会に関係した方たちも、大田区や世田谷とか、そういう近所の区へ引っ越しされた方は来ていただいて、今は57~58名の会員で成り立っている。

(発表の場以外には)あまり集まらない。みんな上野だとかの会に入っている人たちなので、どうしても横の連絡があまり集まらない。年齢的にも上。若い人たちも入れたいが、入ってこない。

油彩画が主体だが、もうちょっと広げると、この4~5年は油彩だけじゃなくて、日本画だとか、蘭画だとか、パステルなどの人たちも(入れた)。そうすると若い人たちが一応入ってくれるが、そうすると伝統があるために、古い方たちはやはりあまり好ましく思わない。

公募展の会員以上、というラインを、前の会長が一応引いた。会員以上となると、セミプロ以上だから、なかなか集まらなくなって、若い方たちが入りづらいように門戸を縮めた時期があった。

私は会員を一応外して、もうちょっと幅を広げて入れていこうというような形を取っている。油彩というのは若い子は何か飛びつかない。

蘭画だとか、パステルは意外と若い女の方たちが入ってくるので、その人たちも一応は会に入れていくようにして、少し若返りをしていかないといけない。会員は70名(〇美術館を使う関係があり、70名以上は増やせない。60名ぐらいが希望)。今、頭は打たれているので、残念ながらあまりやみくもに会員を勧誘するというわけにもいかない。

佐々木さん(華道茶道)

60周年たっているから、相当高齢の会員もいる。若い方もいる。どなたでも、プロであればどなたでも入っていただく。

<会員を増やすための取り組み>

原さん(クラシック音楽協会)

会員を増やすために、ホームページを立ち上げた。全員が演奏家の団体なので、そうことに長けていない。更新していくとか面倒くさい。もうとても面倒で、それがうまく活用できていないので、アピールする方法がない。

<地域の伝統と、新住民との交流をどうするか>

間宮さん(江戸の里神楽間宮社中)

みこしの会では、夜中におみこしを出すという風習がある（特に鮫洲と立会川は昔からそういう風習がある）。当然そこに住んでいる方には、もうそれが当たり前だと思っている。

ただ、新しく住まわれる方というのは、逆にそれが土曜日とか金曜日、夜中に、何でこんな時間にこんなに騒いでいるの、となり、パトカーが何回か来たこともある。伝統文化を残していく上では、やはり新しい方にそこら辺をどのように周知していくかという問題は残る。

昨年、品川、立会川のお祭りの時には、前のそういう経験を踏まえて、各町会単位でお知らせ（おふれというすごいきつい言葉を使ったところもあった）で、とにかくまた騒ぎますという、ご迷惑をかけますということを知らせた。

それで苦情も、かなり少なくなった。やはり伝統と言いながらも、伝統を守るために勝手に遅くまで太鼓のけいこをやっていいのかという、それは当然間違い。結構遅い時間帯（21時ごろ）、特にお祭りだと、みこしに太鼓がついて、その時期になると皆さん、子どもから大人まで練習する。おはやし関係もやはり音が出るんで、どうしても音が漏れてしまう。

地域の新しい人と、どう交流というかたちでご理解いただくかということは、これからの課題なのかなと思う。

<地元のタレントを子どもたちに知ってもらう>

原さん(クラシック音楽協会)

第一線で活躍しているような人たちは私たちのところを土台にして海外に勉強に行き、帰ってきた時は大先生になって帰って来る人もいる。近所にいる人がそういうことができ、それがきっかけで、ああ、あんなふうになりたいなど、けいこに励むようになったとか、近所の普通に歩いていたおばちゃんがピアノを弾かせたらどうだった、みたいなものも結構子どもたちには刺激になる。

#### まちづくり

品川がどんなまちになっていくとよいか、あるいはこうありたいと期待することとしては、「住みやすさ」「安全」「明るい」といった、まちとして必要なキーワードが挙がった。文化芸術やスポーツが潤滑油になっていくこと、企業や住民の接点が増えていくこと、「品川だから ができる」といった誇りを持つことなどが指摘された。

熊井さん(明電舎)



周りの住民の方々も**便利で安全で非常に住みやすいまち**になってほしいという希望がある。

それと同時に、安全であったり、またそこに集う皆さん方が非常に**和気あいあいと明るく過ごすような場所作り**というのが期待されている。

そのときに文化であり、スポーツでありという**要素が接着剤**になったり、また循環剤になって、企業側とそれから住民の方々の接点を増やしていければ、とても心豊かなまちになっていくんじゃないかなという気がしている。

村林さん(六行会)

貸しホールを営業しているので、ここを借りていただいている団体の皆様で、品川のまちに文化の香りを残して、動かしていただけるようなところに、いろんな形でご協力させていただくことも、これからはやっていかなきゃいけない。

例えば、この3月に小さな248席のホールでオペラの公演があった。普通オペラというと大きなところで、料金も何万円と高いが、その団体は小劇場で、手ごろな値段でオペラを見ていただける。普通のオペラでは、1回か2回の公演で、実際に歌われるのは3回か4回ぐらいしか歌えないが、そこは大体8公演ぐらい行う。そうすると、初日と千秋楽とでは、歌手の人の歌っている人の熟成度が違ってくるので、出演者にもプラスになる。1公演7,000円で、ほかのオペラと違う金額でご覧いただける。管弦楽も生の演奏で、イタリア語の原語でやっている。

こういうところに関しては、うちのホールでも、「**品川という場所でもオペラが見れるんだ**」ということの後援していきたい。

加々美さん(日立ソフト)

「にぎわい」というお話だと、やはり**地域の皆様とのお集まり**といったイメージを持っている。

音楽であれ、教育であれ、私どもが何かしら地域の皆さんと連携を取るだとか、そういった機会を通じて、やっぱり私どもの会社がやっていることを知っていただきたい。あるいは、地域のことを我々が知っておくということが基本的には大事なかなと思う。

先ほどお話のあった品川宿や、間宮さんのところのような古くからの文化、お祭りなど、「品川」ということで特徴のある、昔からの文化があると思う。そういった伝統はやっぱり大事にしていくのが非常にいいかなと思う。

我々はどちらかというと現代的なものになるが、楽しんでいただける機会を提供できれば。練習を幾らしても自己満足だけであって、やっぱりお聞きいただいて、その反応で自分たちがまた新しいことを発見して、という形になって

いくと思うので、ぜひそういう機会を自分たちも持っていきたいし、区の中でもそういった機会が増えていくのがいいかなと感じる。

お互いにどんなことをやっているのか、あるいは地域でどんなことをやっているのかとか、そういう知る機会がないので、何かしらお互いにそういった情報交換ができる場だとかいうようなことが、もうちょっと多くあればいいかなという気はしている。

間宮さん(江戸の里神楽 間宮社中)

以前から住んでおられる方も、新しく来られた方も、両方が同じ立場で理解をし合おうというあたりに行政がどういうふうに携わっていくのかというのも1つの課題かなとは思う。町会単位にはなかなか難しい。

山野井さん(美術家協会)

今、若い方主体でクロッキーの会というのを立ち上げている。これを品川美術会協会傘下に置くかどうかで問題になったが、品川区がヌードがいけないということで、展示できなかった。

傘下に置くと援助もできないし、会としても何も手は出ないから、傘下じゃなくて独立したものでやろうと、若い人たちが今やり始めている。こういう若い方たちがやり始めるのを摘んじゃうとまずいだろうと思うが、公共の場、確かに公共の場に掲載する場合にはヌードはいけないということを言われていて、これは何とかしてもらいたい。

若い人たち、私は町会へ関与しているが、お祭りなんかだと、太鼓だとかちっちゃい子も一生懸命やる。ところが、絵なんかはなかなか集まってこない。

協会は35年ぐらいやっている。子どもたちも、もう今は40ぐらいになっているが、その子どもたちが、今度は太鼓だとかをやっている。

私たちも一応絵だから、何か地元にもと思っていても、頭叩いてきて、そういうのが現状。何かよほど複層的なものから考えていかないと、まず無理だと思う。

以上